

この度、社会福祉法人博愛会 実践活動自己啓発レポート制度に法人内で 10 件の応募があり、優秀賞のレポートが表彰されました。

◎実践活動自己啓発レポート制度◎

職員の人材育成とキャリアアップを目指し、施設・事業所におけるサービスの質向上を図るため、自己啓発支援事業として各職場に従事する職員が日頃の業務を通じて実践活動を行った事柄を取り上げ、広く職員にレポートを求め表彰を行うもの。

実践活動自己啓発レポート一覧（10 件）

受 賞	タイトル	事業所	報告者
優秀賞	お母さん方に寄り添う支援センターとは	すくすく	金田寿子・皆川美代子 鈴木優美
	すくすく園の子育て支援センターで、今できるお母さんに寄り添う支援を計画。 ①外で子どもと一緒にご飯を食べる ②同じ年齢のお子さんを持つ方たちとの交流 ③行事ごとの制作活動 の3つを実行した。これからもコロナに負けず、お母さん方が安心して楽しく遊べるように考えていきたい。		
優良賞	コロナ禍の中でも私たちにできること	特 養	佐藤祐子
	コロナ禍で感染リスクの軽減に努める一方、利用者の行動制限や楽しみを奪う場面が増えた。他グループの利用者と交わらないよう各グループを回り、管理栄養士・栄養士が連携して季節の旬を取り入れた手作りおやつを提供する「カフェみどり」を開催。今後も自分たちにできることは何かを考え、利用者の生きがいや笑顔を守るケアを提供していきたい。		
優良賞	子どもと保護者を支援する連絡帳	博愛園	唐橋智・荒川美奈子 酒井和枝
	入園間もない園児が体調不良により 1 ヶ月もの自宅静養を余儀なくされた。保育園専用のアプリ機能を利用し、毎日の健康観察と検温の連絡の他に子どもの様子や父母の心情の支えとなるべく細やかなやり取りを行った。今回のみならず、子育て支援の観点から、専門の知識を生かし様々な保護者との信頼関係につなげていける事例と考える。		

受 賞	タイトル	事業所	報告者
優良賞	新型コロナウイルス感染症流行の中での地域子育て支援拠点“子育て支援センター”の在り方とは	博愛園	長谷川由貴
	コロナ禍の中、地域の子育て支援センターはどのような存在であるべきか、安心・安全に利用できるセンターの在り方について考察した。実施した子育てアンケートの結果から、人との関りを求めているご家族が多いことがわかった。疲労と孤立感を強めている今、困ったときに何でも気軽に相談に来れる居場所作りを目指したい。 		
優良賞	コロナ禍における利用者・家族支援について	特 養	渡部幸大
	コロナ禍の面会制限で食事摂取量が低下した老年期うつ病の利用者を、電話やビデオ通話などで家族と繋げるために支援し、職員が意識的に関りを多く持つよう取り組んだ結果、安定した食事摂取量を取り戻した。「利用者と家族との繋がり」がいかに重要であるかを強く感じさせられる出来事であり、これからも繋がりをより強固にできるよう働きかけを行っていきたい。		
奨励賞	短期入所介護事業所会津みどりホームにおける転倒リスクアセスメント	短 期	古川順一
	施設と利用者の契約では、利用者の転倒による生命、身体の危険の可能性をできる限り回避し減少させなければならず、利用者一人ひとりの転倒リスクを適切にアセスメントする必要がある。評価基準を明確にするため「転倒転落アセスメントシート」を作成し、限られたマンパワーを最大限活用することで、可能な限りの転倒事故防止に努めていく。		
奨励賞	認知症初期集中支援チームとの関わりについて	地域包括	渡部園枝
	認知症地域支援推進員としての活動やケース検討を通して、多職種連携や初期集中支援チーム連携の重要性について考えた。認知症を支援する様々な人たちとのつながりは大きな財産である。今後もこのつながりを大事にして、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活が続けられる会津若松市を目指し認知症支援に関わっていきたい。 		

受 賞	タイトル	事業所	報告者
奨励賞	自分で食べたい気持ちを大切にする環境を整えていく	博愛園	五十嵐聡子・北村淳子 越智愛実・村瀬佳菜
	園児の食事の食べこぼしや短い食事時間などの様子が気になり、保育士・栄養士が連携し、じっくり関われる環境を整え丁寧に対応することで上手に食べられるよう支援した。一人ひとりの子どもの育ちを日々の様子や遊びを通して理解し、気持ちを受け止めながらその子に見合った環境を整えることが大切だと改めて感じた。 		
奨励賞	地域を支えるために、生活支援コーディネーターが出来る事	地域包括	一ノ瀬美鈴
	生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）として、地域の関係者と信頼関係を築き話し合いを重ねて行くことや現状を変えて行くことの難しさを感じながら、関係者のネットワークや既存の取組・組織等も活用し、コーディネート業務を実施することにより、地域における集まりの場づくり、「サロン」や「いきいき百歳体操」などを広げていきたい。 		
奨励賞	本人・家族がワクワクするケアプラン作り	居 宅	池田由美
	ケアマネジャーとして初めての在宅支援に不安や戸惑いがあり、支援に自信が持てずにいたが、アドバイザーからの指導により自分に欠けていたものに気づいた。まずは聞くこと、本人を知ることになり積極的に、本人が主語でなければ根拠のあるプランを作成することができない。支援の仕方を見直すことができた事例を取り上げた。		